

あ
か
牛



(あか牛の放牧風景)

第
42
号

1979.1

社 団 日 本 あ か 牛 登 録 協 会
法 人

1級登録（本登録）牛の年度別の体尺値

年 度	月 齢 (ヵ月)	体 高 (cm)	胸 囲 (cm)	寛 幅 (cm)	体 重 (kg)
昭 30	26.7 ¹⁾ ±4.1	124.2 ±2.7	177.1 ±7.0	44.2 ±1.8	—
昭 40	26.6 ±4.5	124.9 ±2.0	184.6 ±6.1	45.9 ±1.9	480.0 ±35.0
昭 49	22.6 ±3.2	123.8 ±2.4	187.0 ±6.1	45.4 ±1.5	481.2 ±37.7
昭 52	233 ±4.3	125.1 ±2.4	189.5 ±7.0	46.2 ±1.8	501.3 ±39.6

1) 平均値 ±標準偏差

登録等級による受審月齢および体尺値

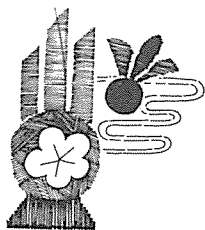
登録等級	頭数	月 齢 (ヵ月)	体 高 (cm)	胸 囲 (cm)	寛 幅 (cm)	体 重 (kg)
全 体	4115	24.3 ¹⁾ ±5.3	124.4 ±2.7	187.0 ±7.9	45.7 ±1.8	488.5 ±45.9
1級登録牛	2989	23.3 ±4.3	125.1 ±2.4	189.5 ±7.0	46.2 ±1.8	501.3 ±39.6
2級登録牛	1126	27.1 ±6.5	122.7 ±2.8	180.3 ±5.9	44.6 ±1.5	451.2 ±42.9

1) 平均値 ±標準偏差

(昭和52年度)

(この表については12ページを参照)

あ か 牛



No. 42

1979.1

目次

年頭の辞 (会長就任に当って)	会長堀力	2
新会長とあか牛に のぞむこと	農林水産省畜産局 家畜生産課長	4
共進会の発展	熊本県経済農協連 畜産コンサルタント	7
登録受審時における 発育および栄養状態について	本会熊本県支部	12
山崎政治	吉永民雄	12
会報		19
子牛市場成績		34

年頭の辞

(会長就任に当って)

会長 堀 力

謹んで新年の御祝辞を申し上げます。

さて私は、昨年十月三十一日の当協会臨時総会において会長理事に選任され就任いたしました。前会長の故岡本正幹先生の後継としては、学識、経験共に未熟ですが、皆さまが飼育されているあか牛を、我が国の肉用牛を代表する品種として、また国産牛肉供給の代表として流通消費の面からも支持されるよう全力投球して参りたいと考えております。よろしく御支援、御協力を賜ります様お願い申し上げます。

ところで最近の我が国の肉専用牛に関する統計数値は次の表の通りであります。

ここで特に問題点として考えたいことは、あか牛の全頭数に占める割合が九・三%となっていることです。昭和三十四年から三十八年位までは、この割合が二〇%台を維持していたのがその後漸次減少し数年前から一〇%を切つて

表 我が国肉専用牛に関する統計数値 (昭和53年2月1日現在)

区分	褐毛和種 (あか牛)	黒毛和種	日本短角種	その他	計
頭数	79,126	731,661	30,202	9,550	850,539
全頭数に対する割合	9.3	88.3	3.5	1.1	
飼養農家数	27,990	300,611	8,648	1,280	338,529

います。その反面日本短角種は昭和三十四年頃〇・三%であったのが、最近は三・六%と増えている現象を見逃すわけには参りません。黒毛和種も順調に割合を増してきています。これは端的に申して一部のあか牛生産地帯が黒牛に入れ替つた結果と申せましょう、その原因は種々あるでしょうが、あか牛の市場評価が黒牛より全般的に低いと言うことでしよう。その反面短角種は低く評価されても、その生産形態が山林原野の放牧を主体とするところから生産費が安く、少々の安値でも十分持ちこたえられるからと思います。私はこちらで日本の肉専用種の各品種にそれぞれ経済性の順位をつけるつもりはありませんが、あか牛としては、あか牛の持つて

環境において集中的に飼育し、そして牛肉の消費者に喜んで買ってもらえるような肉質を均一に作る牛として発展したいものです。私はあか牛の特性として強調したい点は次の通りです。

- (1) 発育が早く、産肉量が多い。
- (2) 草の利用性に富み、特に放牧に適している。
- (3) 繁殖能力がよく、泌乳量が多く子牛の発育がよい。
- (4) 体質強健で性質が温順で飼い易い。

あか牛はこれらの特性を生かして将来に向かい大きく羽ばたく牛です。皆さん大いに頑張りましょう。

以上簡単ながら所信の一端を申し述べ御挨拶といたします。



新会長とあか牛にのぞむこと

農林水産省畜産局

家畜 生産課長 中西 幹 育

私共がいろいろと御指導を頂いた岡本前会長の後をうけて新しい会長として堀力氏を迎えたことに対して心よりお祝いを申し上げます。今回の後任人事につきましては日本あか牛登録協会より推せん御依頼があり、関係者相寄りまして相談の結果堀力氏を最適任として推すことになり、関係者の御了承を得て協会に御回答申し上げた次第です。

堀力氏は今更申すまでもなく元熊本県畜産課長として直接あか牛の改良増殖に関係されたほか、九州農政局構造改善部長として又畜産局家畜生産課長として全国的な立場で肉用牛の改良増殖事業に鋭意努力された方ですのでその経歴よりして正に新会長として最適任者であります。又未だ五十四歳という若さであり、その積極的な御性格と併せて正にバイタリティーに溢れた新会長でありますので、岡本前会長の築かれた輝しい土台の上に更に新しい発展を築かれるものと心より期待いたしております。

さて纏ってわが国の肉用牛をめぐる情勢を見ますと、昭和五十三年二月一日には待望の二百万頭を突破いたしました。この中で、肉専用種は約百四十六万頭ですが肉専用種乳用雄子牛共に対前年頭数を上廻っており、肉専用種の子牛の生産頭数も増加しております。これはなんとしても国民の牛肉消費量が極めて順調に増加しており、特に最近では前年を十パーセントも上廻って増加しております。農産物で前年を十パーセントも上廻るものは極めて少なく、いかに国民が牛肉を好むかを示しております。この結果わが国の牛肉の生産は消費に及びつかず不足分を輸入することとなり、昭和五十二年では牛肉の自給率は七十五パーセントにまで低下いたしました。この様な情勢のもとで現在牛枝肉価格及び子牛価格は極めて堅調に推移しており、久方ぶりに産地が活気づいております。しかしながら皆様御承知のように牛肉をめぐる国際環境は極めて厳しく牛肉の自由化というわが国内肉用牛生産の根幹にふれるような難題が提起されてきました。殊に米国からの高級肉を中心とした圧力は既に新聞紙上等で御案内の通りです。このような強い圧力に対して政府といたしましてはわが国の牛肉は可能なる限りわが国で生産し不足分については輸入するという態度を堅持いたしました。米国よりの強い自由化の要請を断呼として拒否いたしましたのは皆様御案内の通りです。F

A Oの長期見通しでも牛肉は世界的に不足する予想が立てられており、更に最近の情勢では一九七九年即ち本年には米国も豪州も牛肉生産は減産する予想であり世界的には牛肉の需給は厳しい情勢です。この様な国際環境のほかに国内から安い牛肉を消費者へという強い声が出されており、政府としても可能なる限りこの消費者の節なる声に応えなければなりません。

このような内外の厳しい情勢を思う時、いよいよあか牛の出番が遂にやってきたと思います。なぜならこれからの国民の増大する牛肉への要求に応えるにはコストの安い、産肉性の高い肉用牛でなければなりません。このコストの安いと言うことはなんとしても放牧を中心とした粗飼料の利用率の高いそして増体のよいものでなくてはなりません。この点につきましてはあか牛が極めてすぐれておりますことは数々の試験データが示しております。又農林水産省統計情報部の生産費の調査でも全国の生産費に対してかなり低い生産費が出ております。これは熊本県の立地条件の良さもありますが熊本県が生産費調査の対象牛の大半を占めるあか牛のすぐれた生産性によるものと思います。又サシの問題にいたしましてもあか牛が現在示しているサシの中には極めてすぐれたものもありますし、今後のわが国の牛肉の嗜好から見てプラス五とかプラス四とかは必要であり

ませんのであまり気にすることはありません。そこで私が新会長はじめあか牛関係者にのぞむことは次の通りです。

一、あか牛は自信を持ってということです。

あか牛は立派な牛ですのであか牛は自信を持って堂々と胸をはって進むべきと思います。

二、あか牛はあか牛らしくやることです。

すべての肉用牛にはそれぞれの長所、短所のある所はやむを得ない所ですが、あか牛の中にはや、もすると他の品種のまねをして無理をする所が見られますが、それは全くつまらぬことです。あか牛にはあか牛にしか持つていない沢山の長所があるのですから、出来る限り短所を改めるのはよいですが、その結果あか牛のよい所を失ってはなりません。やはりあか牛はあか牛らしくやってください。

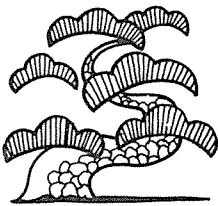
三、あか牛の改良は全国ベースでやることです。

現在のあか牛の飼養の状態から見てもあか牛の改良が熊本県が中心となるのは当然ですがこの成果と言うものは全国にあか牛の生産者に及ぶように心がけてください。幸いにも熊本県は畜産局が実施している肉用牛種畜生産基地育成事業を非常に真面目に実施され、すばらしい成果を挙げておられますので、今後このような態度でより広い気持でやって欲しいと思います。

四、あか牛の拠点在全国につくることです。

かつてあか牛は全国の沢山の県で飼育されておりました。これは役用牛としてあか牛のすぐれた所が高く評価された為と思います。しかしながら最近ではかなりその数は少なくなりました。全く残念でなりません。これはあか牛の真の良さが十分に理解されないことに大きい原因があると思えます。もともと関係者はその面での努力が必要でしょう。私は五十三年の九月に北海道の森町にある三井観光KKの大沼牧場を訪ねまして、熊本から購買されたあか牛が野草地で実に見事に成育されている姿を眼のあたりに見まして心より感激いたしました次第です。又この牛は場内で肥育されて、札幌の一流ホテルで消費されておりましてそのコックさんもあか牛の肉のすぐれた所を認めております。又十勝の池田町でも熊本からのあか牛が立派に飼育され、十勝ワインとともに有名な存在となっております。今や北の果て北海道ではあか牛の新しい拠点が誕生いたしております。これには熊本の関係者の並々ならぬ努力のあったこととは申すまでもありません。このような拠点を再び全国につくり出すことが必要と思えます。それにはまず最大の生産地である熊本県の方々が県はじめ公共団体と登録協会をはじめとする生産者団体が心を一つにして立向うことが何より大切なことでしょう。

以上いろいろと述べて参りましたが、日本あか牛登録協会が若き新会長を中心に一致団結し、心を新たにして、自信を持ってあか牛の振興の為に邁進されんことを心からお願いいたすとともに畜産局といたしましても可能なる限りの御援助を致すことを申し述べまして終りいたします。



畜産共進会の発展

熊本県経済農協連

畜産コンサルタント

河津 幸喜

はじめに

永年畜産、特に家畜改良業務に関係している過程でいろいろな機会にまた思いもかけない所で畜産関係外の人から畜産共進会の是非論について意見を聞かされたことが度々あった。謂く個体の優劣を競って何の意義があるかと。労費の無駄ではないか等、きびしい批判を受けたこともある。少し固くなるが畜産大事典には共進会の意義については次のように説明がなされている「近年いろいろな団体による共進会に対してさまざま批判も寄せられているが、その意義として参加者の牛の体型上の長短を他の牛と比較しながら把握する教育的効果、今後の改良方向への提示、農民の祭典ともいわれる参加者の交流や将来への意欲と刺激を与える場の提供等が考えられ、最新の技術や展示、参加者の審査コンテスト、セリ等の付帯行事を創意工夫した運営の仕方によってその意義は高まるものといえよう。」と以上のとおり要約されているが、確かに農民意識の中からそ

の意欲のあらわれから自主的に品評会、共進会へと明治の世から戦時中も絶えることなく戦後は更に発展の一途を辿り今日に至った歴史と伝統は否定できない。のみならず、育種的に経済形質の改善に能力の向上に努力が注がれ農家経営の安定への大きな貢献をもたらしているのが現実である。市町村単位から郡市段階、県一円、地域的、更に全国和牛登録協会が主催した第三回全国和牛能力共進会の如き一年前からスタートした全国からの参加牛実には四三〇〇頭の中から数回の予選を経て最終予選二八〇頭が一堂に集合審査を受ける等の先進諸外国にも類例を見ないであろう大規模の共進会に至るまで盛大を極めている。野球の甲子園にも、国体、オリンピックにも通ずるものといえよう。熊本県下にも畜協主催の共進会の中では二日間の日程で一晩を家畜と共に、未知の人との出会いの会場を心の触れ合いの場として親交を温め、勉強の場として畜産人としての生き甲斐を語り合うチャンスとし効果を挙げている。要するに名の如くせつさたくまする畜産の一大祭典であろう。最終的には国民に裨益するところ大といえよう。

共進会への発展過程

(一) 品評会の起源

熊本県の共進会の史実は、県庁、県団体の戦災によりそ

の詳細について詳述するは困難であるが、幸い「阿蘇郡畜産組合三十年小史（昭和四年十月十日発行、組合長小屋迫一氏編）」に拠り漸く識ることができる。従つて、この小史によると、明治二十七年十月二十四日付で阿蘇郡白水村桐原伝三郎氏ほか二名の発起人名で当時の松平正直知事あてに連合牝馬品評会開設について審査官派遣と補助金の申請がなされ、品評会規則の認可と補助金拾五円（米一俵は二円六六錢）の下附の指令が十一月十五日付で出されている。同年十二月二日、三日白水村大字吉田で阿蘇郡内第一回の馬匹品評会が開催されているが、これが県下における最初のもの特記されている。ちなみに、会則の中には、一等より六等まで、出品目録の出品馬資格は三才以上十才以下で一人一頭、費用は出品人負担、審査規程の中では、審査附点項目は資性、骨相、皮毛、四肢、蹄、牝の特要部（腹部および腰部の寛容なるもの）、体軀、動作健否の九部位で五〇〇点となっている。来観人五五〇人とある。やがて、その波及は郡内各町村連合へと、変わったところでは南小国村の如き満願寺婦人会主催の子牛馬品評会、北小国村（現小国町）では青年会主催（黒淵、下城）その他農会、模範組合主催等へと限りなく盛んとなる。

郡段階でも明治四十三年開催の第十三回という記録があるが、郡役所時代で阿蘇郡畜産組合主催の第一回の産牛馬

品評会は大正五年宮地町（現一の宮町）となっている。以後幾星霜、回を重ねてきた。おそらく県下一円へと波及し逐次随所で隆盛を辿つたものと思われる。

（二）県共進会への発展

熊本県における県畜産共進会は明治四十一年第一回馬匹共進会を熊本市において開催したのが始まりで、畜牛は大正二年熊本市で開催が起源。その後牛馬併せて開催されるに至り、その歴史も昭和五十二年本渡市で開催されたのが第三十回目になる。この間に県と農業団体共催の畜産祭りが二回（昭和四十六年熊本市、五十年山鹿市）。県畜連主催肉畜共進会が二回（昭和四十年熊本、四十四年大阪）となっている。筆者が関与したのは昭和十七年第十三回以来である。

（三）九州連合畜産共進会

九州連合共進会の開催は小史では明治四十三年福岡での第一回馬匹共進会が起源で、大正二年鹿児島で開催の第二回馬匹共進会で初めて牛が参加している。私が関係したのは第九回大分で開催された昭和二十七年の講和記念九州連合共進会からである。この九連は戦後初めてのものであり戦後の農業を反映し、その出品家畜も乳用牛、牛、馬、豚のほか、めん羊、山羊、鶏に至る多彩なもの、その後、三十年鹿児島、三十四年熊本（玉名市）では肉牛も加わり、

三十八年の長崎（大村市）ではめん羊、山羊は不参加となり四十二年三月宮崎（四十二年度）の都城市では馬が姿を消し、四十六年佐賀開催は折しも長崎県内に発生した牛の流行性感冒のため開催時期を無期延期したものの、諸情勢の変化のため家畜出品をやめ九州畜産振興大会（四十七年二月）に切替えた。その後の検討で各県の意見の大半が、九連開催に消極化し、国内にその伝統とレベルを高く評価されていた九州連合畜産共進会もこの第十回をもって歴史の幕を閉じた。

（四）共進会の回顧

私の体験した共進会の回顧も多様であり、郷愁もあるがこの機関紙が「あか牛」である以上、紙面の都合もあり、焦点を「種雄牛」に絞って憶い出すまま述べてみたい。

昭和十七、八年の県共は、第六師団の練兵場（現県立女子大学校）で開催され、出品牛馬は畜主と共に会場周辺の農家に宿舎を借り受けて、会場へ往復したものである。この慣習は三十六年の阿蘇会場まで継続された。

私は十七、八年の県共時は下益城郡駐在、出品する立場であった。出品側の最大の関心と期待は擬賞にあることは今も昔も変りはない。当時の擬賞は一等賞一点、二等賞二点式の少数であった。また、レベルも現在と違い個体の格差があった。役用主体の時代、阿蘇から出品された種雄牛

は蘇丸、丸久系で梅号、蘇光系では桜号が出品され、結果は、均称の整った淡毛の梅号が一席、濃褐で肩の厚めの桜号は三等に擬賞された。梅号系では、その後、本登録第一号の梅光号を出した。桜号からは濃褐色で体積に富む重富号、重丸号その他幾多の肉用タイプがあか牛が続出して今日に及び、肉質で定評のある重玉号もこの系統である。

二十二年と二十四年は陸上競技場で開催。とくに二十二年は県馬匹組合連合会と県農業会の共催であった。出品牛のトップ争いは、出品側技術員も真剣、審査委員も慎重なもの。二十三年、私は本庁に転勤、二十四年の県共では開催事務にあたった。二十三年農協法施行により畜協が設立され、県と県畜連との共催で第一回とするかどうかで論議がなされた。私は県共進会の歴史を重すべき意見を出したら衆議一致し第十六回とすることになった。二十七年は球磨から開催地の要望があり、地方開催には反対の強固な意見も出たが時の木下畜産課長により決断され、その後、地方開催が常識化して現在に至っている。この地方開催は開催地方には大いなる教訓と刺激と意欲を盛り上げその成果は後年偉大に具現された。この人吉では南阿蘇畜協出品の松波号が出品されたが、月齢の超過で引き続き行なわれた大分市での九連には出品できなかった。矢部畜協から第一白棠号が出品され有終の美を飾った。私は人吉から貨車

十一輛に代表家畜を積載、穴井技師と護送にあたり車中の一泊、東肥畜協出品馬の疝痛の治療に一夜を明かしたが幸に治ゆしホツとした。

二十九年県種畜場では褒賞式は大雨、種雄牛は久宮号（南阿蘇）が首席、旭号（球磨）二席、高波号（阿蘇中部）久浜号（矢部）光浦号（球磨）等功績を挙げた優良牛が揃った。わけても光浦号は二十二ヵ月ながら体型、資質に優れ、翌三十年の鹿児島九連では農林大臣賞を獲得、同じく鹿児島では第三福栄号（菊池）富栄号（鹿本）共に三等に入賞。

三十二年は山鹿市で開催、この会では球磨から豊栄号、第二光浦号が共に一等、矢部から福丸号、第二久浜号が出品、二等入賞となる。

三十四年は地元の名産市で九連、光浦号を父とする第五光浦号（球磨）はグランドチャンピオンの榮譽に輝く。総理大臣賞受賞。この牛が遺伝力抜群で体型と肉質に定評があり、光優、光武号等の優良種雄牛を出す功勞牛。

三十六年、阿蘇での県共には第五光浦号の直子五光号、第十光浦号、重丸号の直子の重利号、また福丸号直子の菊丸号、雄栄号を父とする第五雄栄号等多数の種雄牛の出品があった。

三十八年（八代）から主催は県畜連、宣山、浜花号（南

阿蘇）は共に長崎（大村市）での九連に出品、宣山号は畜産局長賞となる。

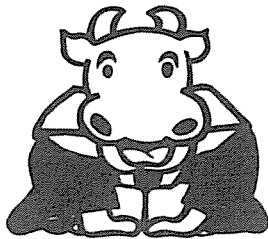
その後、四十一年の熊本市（健軍）では南阿蘇出品の草桜号が産子成績を挙げ、四十三年の人吉、都城の九連では時期がずれたため種雌牛が優位を占めた。四十四年第二十七回天草の県共では重玉号（阿蘇）が検舞台へ登場。この県共進会では県畜連は画一的に牡齡の部を大阪に熊本県内畜協から二十三頭を出品しその真価を問うた。この成績は上々で、肉質は二十一、二十二ヵ月ものが市場の好みにピッタリで、あか牛の特性から今後は十八、十九ヵ月肥育で「サシ」をプラス程度入れる工夫をすれば経済性は益々高まるだろうとの見解がなされた、また市場側からは「品質の向上はもちろん均一化をはかり、出荷体制の一本化」を要望された。

特筆すべきは、第一回全国褐毛和牛産肉能力共進会（日本あか牛登録協会主催）であか牛の産肉性を問うこの共進会は昭和四十五年十一月八日から十日まで大阪において全国の主要県から五〇頭を集めてあか牛の産肉性を検討し、その経済性を広く全国的に普及せんとしたもので、農林省地企協の援助を受け全国会員協力のもとに盛大に開催した第一部産肉能力検定区に熊本県畜産試験場から「竜浦号」県畜連から「光優号」夫々の産子五頭、第二部理想肥育区

四〇頭（長崎県四頭、福岡県五頭、熊本県一〇頭、長野県七頭、茨城県四頭、宮城県五頭、秋田県五頭）で審査委員も現畜産局家畜生産課中西課長、宮崎大学熊崎教授、九州大学古賀助教授、大阪畜産光岡社長等、斯界の権威者により行なわれ、その成績は極めて上々で、自信と将来への大きな期待を持たれるに至った。

おわりに

世は移り種雄牛の集中管理の推進により、県共進会は今もなお続いている中で次第と種雄牛の共進会出品はチャンスが無くなり今日に及ぶ。しかし堂々たる種雄牛の雄姿を共進会場で見られずとも、その産子の肉牛検定群の出品、後代検定済の経産登録牛等新しい分野の展開がなされ、畜産農家への普遍的成果は當農の中に大きく貢献しその実を挙げている。共進会の内容は時代に即応しながら変って行くこうともその意義においては少しも変ることなく躍進発展を遂げている。私達は尚一層先覚者の遺志を継承しなければならぬ「本を忘れず末を乱さず」である。そして畜産農家、あか牛飼育者の限らない発展と益々の繁栄を祈念する次第です。



調査研究

登録受審時における 発育および栄養状態について

日本あか牛登録協会熊本県支部

吉 永 民 雄
山 崎 政 治

はじめに

あか牛の体型面の改良が、どの程度進んだかは、登録における受審月齢および測定値で大体はあくされる。また最近とくにあか牛に関する研究会、委員会等において論議されるのが登録受審時における放牧のとりあつかい方および過肥の問題である。

そこで、あか牛の発育については昭和五十二年熊本県内の登録牛について受審月齢および測定値について、また栄養状態については昭和五十三年度熊本県内受審牛について胸囲率および栄養度（体重/体高）について調査しましたので、その結果を報告します。

結果

(一) 登録牛の受審月齢および測定値について

昭和五十二年熊本県内で登録を受審した四一五頭について受審時月齢、体高、胸囲寛幅および体重について表一に示した。全体（一級登録牛十二級登録牛）について、生後二四・三ヵ月齢で受審し、あか牛の目標とする大きさに達したとみられる。なかでも特に、一級登録牛においては体高、胸囲および体重のいずれもが目標値に到達しているが、寛幅についてだけわずかながら目標値を下回っていることがうかがわれる。

一級登録牛における月齢別の測定値および得点について表二に示した。生後十六〜二〇ヵ月齢までの受審牛の妊娠月齢はほぼ三〜四ヵ月であり

(表1) 登録等級による受審月齢および測定値

登録等級	頭数	月 齢 (ヵ月)	体 高 (cm)	胸 囲 (cm)	寛 幅 (cm)	体 重 (kg)
標準体型 <small>目標とする大きさ</small>		24.0	125.0	190.0	47.0	500.0
全 体	4115	24.3 ¹⁾ ±5.3	124.4 ±2.7	187.0 ±7.9	45.7 ±1.8	488.5 ±45.9
1級登録牛	2989	23.3 ±4.3	125.1 ±2.4	189.5 ±7.0	46.2 ±1.8	501.3 ±39.6
2級登録牛	1126	27.1 ±6.5	122.7 ±2.8	180.3 ±5.9	44.6 ±1.5	451.2 ±42.9

1) 平均値 ± 標準偏差

(昭和52年度)

生後二十二ヵ月齢以降の受審牛のそれはほぼ六ヵ月であった。また生後二十二〜二十四ヵ月齢で受審するものが全体の約半数を占めた。

表二より、生後三十六ヵ月齢での受審牛を除いて、月齢がす、むにつれて、体高、胸囲、寛幅および体重についての測定値は、漸次大きくなっていくのがみられた。また得点については月齢の若い方がすぐれていることがうかがわれた。また、これらをあか牛の発育の指標である発育曲線にあてはめてみると、体高については生後十六ヵ月齢ではその上線（発育がすぐれているもの）が一二〇・五cmであるが、本調査牛では一二四・一cmとかなり発育はすぐれており、生後二十二ヵ月齢まではその上線を上回っていたが二十四ヵ月齢以降も大きくはなっているが、その値は上線と中線の間に位置した。胸囲については、生後十六ヵ月齢では、その上線は一七七cmであるが、本調査牛では一八八cmとかなりすぐれていた。また、生後二十四ヵ月齢以降についてはほぼ同じ値を示し、生後三十二ヵ月齢以降はその上線とほぼ一致した。寛幅については生後十六ヵ月齢でその上線が四三・五cmであるが、本調査牛では四五・二cmとすぐれた値を示し、生後二十二ヵ月齢までは良好な発育値をとり、その後はほぼ同じ値をとり、また生後二十四ヵ月齢以降はその上線と中線の間に位置し、生後三十六ヵ月齢

(表2) 1級登録牛における月齢別の測定値および得点について (昭和52年度)

月 齢 (ヵ月)	頭数	体 高 (cm)	胸 囲 (cm)	寛 幅 (cm)	体 重 (kg)	得 点
16	9	124.1 ± 1.6	188.0 ± 4.9	45.2 ± 1.5	473.7 ± 38.0	81.9 ± 0.9
18	95	123.6 ± 2.6	187.5 ± 5.2	45.8 ± 1.8	480.7 ± 32.1	81.2 ± 1.0
20	266	124.6 ± 5.6	188.9 ± 6.1	46.0 ± 1.5	491.5 ± 38.7	81.2 ± 1.0
22	433	124.9 ± 2.3	189.9 ± 5.8	46.2 ± 1.7	502.9 ± 37.0	81.3 ± 1.1
24	382	125.1 ± 2.4	189.3 ± 6.2	46.2 ± 1.4	504.7 ± 40.3	80.9 ± 1.1
26	171	125.8 ± 2.4	190.5 ± 6.2	46.3 ± 1.5	510.9 ± 40.6	81.1 ± 1.1
28	74	125.9 ± 2.6	190.1 ± 6.9	46.3 ± 1.7	514.4 ± 47.3	80.9 ± 1.1
30	30	126.3 ± 2.7	191.6 ± 7.3	46.9 ± 1.9	512.1 ± 45.2	80.7 ± 0.9
32	14	126.9 ± 2.6	189.0 ± 5.9	46.7 ± 2.3	507.2 ± 46.7	80.8 ± 0.6
34	8	127.8 ± 3.2	191.5 ± 5.4	46.4 ± 0.8	526.2 ± 37.2	80.9 ± 1.0
36	9	127.8 ± 1.5	185.8 ± 6.1	46.1 ± 1.7	477.8 ± 41.6	80.5 ± 0.7

では中線上に位置した。体重については、生後十六ヵ月齢でその上線が三七五kgであるが、本調査牛では四七三・五kgと非常にすぐれた値を示し生後二十八ヵ月齢まではかなりすぐれた値を示した。

これらのことより、あか牛の体型面に関していえば、発育の能力がかなり改良されてきており、とくに生後十六ヵ月齢における発育能力の改良についてはかなりすばらしいものと推察される。

一級登録（本登録）牛の測定値を年度別に比較したものを表三に示した。あか牛の改良過程をみると、昭和三十年代はまだ役牛時代の残りがあり、昭和四十年代前半は役肉兼用時代となり、四十年代後

(表3) 1級登録(本登録)牛の年度別の測定値

年度	月 齢 (月)	体 高 (cm)	胸 囲 (cm)	寛 幅 (cm)	体 重 (kg)
昭 30	26.7 ¹⁾ ±4.1	124.2 ±2.7	177.1 ±7.0	44.2 ±1.8	—
昭 40	26.6 ±4.5	124.9 ±2.0	184.6 ±6.1	45.9 ±1.9	480.0 ±35.0
昭 49	22.6 ±3.2	123.8 ±2.4	187.0 ±6.1	45.4 ±1.5	481.2 ±37.7
昭 52	23.3 ±4.3	125.1 ±2.4	189.5 ±7.0	46.2 ±1.8	501.3 ±39.6

1) 平均値±標準偏差

(表4) 各地区における登録牛の受審月齢および測定値

地 区	頭 数	月 齢 (月)	体 高 (cm)	胸 囲 (cm)	寛 幅 (cm)	体 重 (kg)
全 体	4115	21.3 ¹⁾ ±5.3	124.4 ±2.7	187.0 ±7.9	45.7 ±1.8	488.5 ±45.9
下益城	194	24.6 ±3.9	124.4 ±2.8	189.4 ±7.6	47.2 ±2.7	499.9 ±46.1
玉 名	65	21.3 ±3.4	123.8 ±2.4	190.6 ±7.2	45.4 ±1.8	498.9 ±44.6
南 関	33	24.3 ±2.9	123.9 ±2.3	184.9 ±7.3	45.1 ±1.3	489.0 ±41.7
菊 水	45	23.7 ±3.2	123.1 ±2.9	185.9 ±7.2	45.5 ±1.4	470.3 ±47.5
鹿 本	244	23.4 ±3.9	124.5 ±2.5	187.3 ±13.3	46.7 ±2.1	492.4 ±43.2
菊 池	281	24.1 ±4.6	124.3 ±2.7	185.6 ±7.0	45.6 ±1.6	474.8 ±44.1
東 肥	168	22.8 ±4.3	124.5 ±2.6	186.8 ±6.9	45.2 ±1.8	477.5 ±53.0
阿蘇中部	643	25.0 ±6.0	124.7 ±2.7	188.2 ±7.2	45.7 ±2.1	482.2 ±41.9
南阿蘇	683	24.9 ±6.5	124.5 ±2.6	187.1 ±7.5	45.3 ±1.5	489.6 ±43.8
小 国	156	27.0 ±9.8	123.1 ±3.5	180.5 ±7.1	45.5 ±1.6	455.2 ±45.6
上益城	138	24.3 ±4.1	123.4 ±2.7	186.2 ±6.7	45.2 ±1.6	476.9 ±41.8
矢 部	356	23.5 ±5.3	123.0 ±2.6	184.9 ±7.4	44.7 ±2.7	473.1 ±41.7
球 磨	1109	24.2 ±3.6	125.1 ±2.6	187.6 ±7.1	46.1 ±1.5	503.3 ±43.6

1) 平均値±標準偏差

(昭和52年度)

半からは肉専用時代になったものと思われることは、受審月齢および胸囲率の測定値をみると、その変遷の経過が歴然とかがえる。昭和四十年と昭和四十九年度を比較すると測定値をみるかぎり、胸囲のそれを除き、一見向上の跡がみうけられないようにみえるが、受審月齢については、昭和四十九年度の方が四ヵ月も若く、これは肉専用種への改良が進み、発育がよくなったことのあらわれであることが容易にうかがわれる。

本県内の郡支部別の登録牛の受審月齢および測定値を表四に示した。地区別にみると玉名地区については、登録を受審し、一級登録に合格したもののうち、半数以上が子牛生産地区に移動するという育成地区であるので受審月齢が他の地区に比較して若く、胸囲の値が大きい、小国地区については登録受審牛の八〇%以上が放牧されているので、受審月齢が、他の地区に比較してかなり遅く、胸囲の値も小さい、つづいて放牧牛が多いのは阿蘇中部地区、南阿蘇地区および矢部地区である。球磨地区の牛は県下で最も大型であるので、他の地区に比較して体高あるいは体重の値が大きい。下益城地区だけが寛幅についてあか牛の目標とする大きさ四七cmに達していた。

(二) 登録牛の胸囲率および栄養度

昭和五十三年登録牛一二三頭を対象として胸囲率および栄養度を調査したのが表五である。小国、阿蘇中部といった地区においては放牧の關係から胸囲率、栄養度において他の地区より数値が小さい。他の地区においては、大旨胸囲率一五〇%、栄養度四〇である。

胸囲率、栄養度の分布をグラフに表わしたのが図一、図二である。

胸囲率について、五%間隔で頭数を示したのが表六である

登録受審牛において

(表5) 昭和53年度登録牛の胸囲率 栄養度調査 (53年7月-12月)

支部名	全 体			1 級			2 級		
	頭数	胸囲率	栄養度	頭数	胸囲率	栄養度	頭数	胸囲率	栄養度
鹿本	118	150.8	4.0	91	151.7	4.0	21	146.9	3.8
菊池	105	148.2	3.8	77	148.8	3.8	28	146.5	3.7
東肥	49	150.6	3.9	35	151.2	4.0	14	148.9	3.7
小国	71	146.2	3.6	38	147.3	3.8	33	145.1	3.5
阿中	191	147.9	3.8	165	148.7	3.8	26	142.7	3.4
南阿	182	152.3	4.0	151	153.2	4.0	31	148.1	3.7
矢部	113	151.6	3.9	77	152.7	4.0	36	149.3	3.7
下益城	57	150.5	4.0	43	151.7	4.0	14	146.9	3.7
球磨	327	149.5	4.0	292	149.9	4.0	35	146.7	3.8
合計	1213	149.8	3.9	972	150.5	4.0	241	146.7	3.7

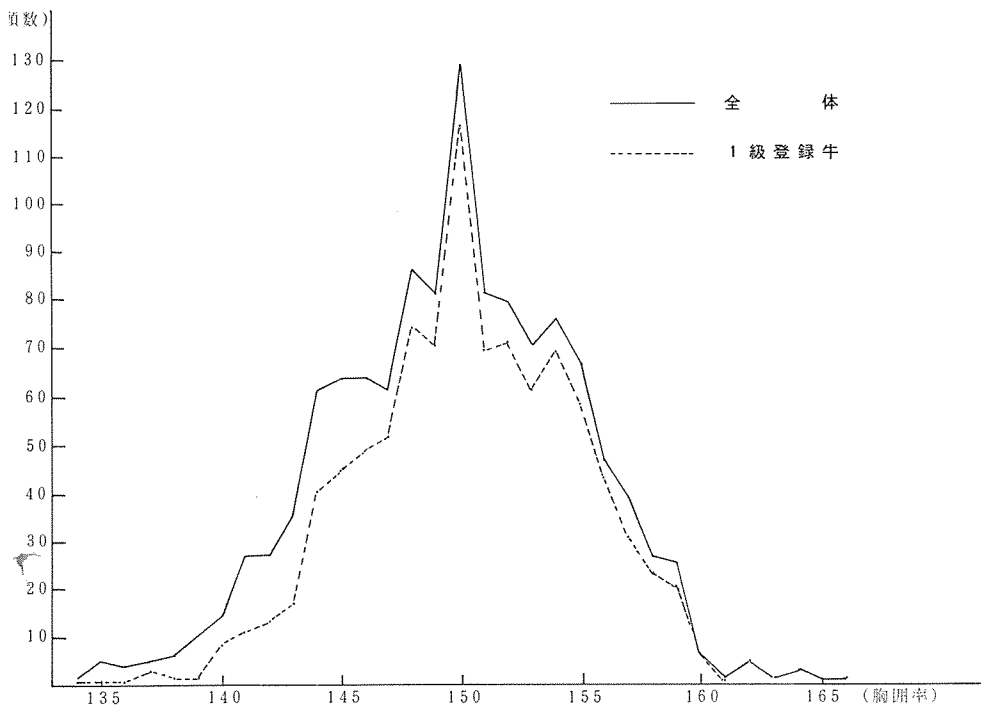


图 1 胸 围 率

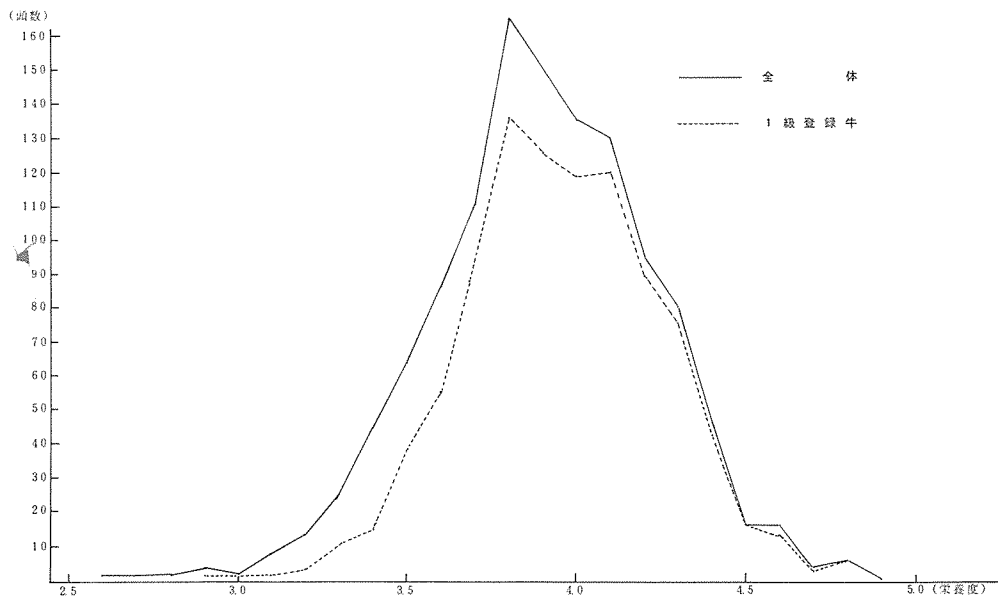


图 2 胸 围 度

て、胸囲率一五〇%以上は全体で五四・七%、一級および二級でそれぞれ六〇・二%、三二・四%であった。一級登録牛の一四五%以下というのは、ほとんど放牧牛であるところから一級登録牛においては、大旨胸囲率は一五〇%に達したとみてよい。

栄養度において〇・五間隔で頭数を示したのが表七である。登録牛において九五%以上が栄養度四・五以下であり表七を見ると、一部を除く限り過肥を心配する必要はないと思われる。

むすび

以上のことからあか牛の改良は表現型で今後改良を必要とする部位もあるが全体的な大きさについては、改良目標にほぼ到達したと見てよい。また登録における過肥(栄養度)の問題については、登録審査で発育状態の附点を左右する胸囲率が過肥を誘発するという意見もあるし、逆にある程度栄養状態が良くても繁殖に支障をきたさない限り良いという意見もある。表五から胸囲率は、平均約一五〇%に達しているので審査細則から除くかどうかを検討する時期にきていると見てよい。放牧牛の登録受審時におけるとりあつかい方については、放牧牛に対するデータを集積して今後検討する必要がある。ただし放牧牛といってもあ

(表6) 胸囲率

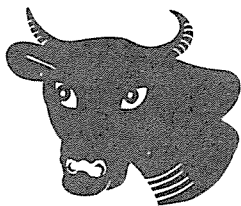
胸 囲 率		140%未満	140 ~ 144	145 ~ 149	150 ~ 154	155 ~ 159	160%以上
全 体	頭割 割合	32 (2.6)	164 (13.5)	354 (29.2)	436 (35.9)	204 (16.8)	23 (1.9)
1 級	頭割 割合	10 (1.0)	89 (9.2)	288 (29.6)	387 (39.8)	176 (18.1)	22 (2.3)
2 級	頭割 割合	22 (9.1)	75 (31.1)	66 (27.4)	49 (20.3)	28 (11.6)	1 (0.4)

(表7) 栄養度

栄 養 度		3.0 未満	3.0 ~ 3.4	3.5 ~ 3.9	4.0 ~ 4.4	4.5 ~ 4.9	5.0 以上
全 体	頭割 割合	5 (0.4)	92 (7.7)	580 (47.8)	490 (40.4)	45 (3.7)	0
1 級	頭割 割合	1 (0.1)	31 (3.2)	449 (46.2)	450 (46.3)	41 (4.2)	0
2 級	頭割 割合	4 (1.7)	62 (25.7)	131 (54.4)	40 (16.6)	4 (1.7)	0

る程度の栄養が必要ではないかと思う。

今日のあか牛において表現型は、改良目標に達したので今後の最大の課題は、枝肉格付「上」程度を目標とする、肉質の改良、斉一化に努めることである。現場検定をはじめとして、各試験牛、その他の出荷牛の肉質を調査し、肉質の優れた系統を選抜し、そのデーターを基礎としてあか牛関係者が一丸となって系統造成事業を推進することが必要である。



会報

○ 東日本ブロック研究会

本年度の東日本ブロック研究会は昭和五十三年八月四、五日の二日間、秋田県北秋田郡阿仁町において開催した。研究会には北海道、宮城、福島、群馬の各県に地元秋田県から黒木県畜産課長ら多数の来賓、関係者が出席し、また農林水産省畜産局の新山肉用牛係長の臨席があった。

第一日目は阿仁町公民館において協議会を開催、本部事務局より五十四年度から実施する登録規程改正、諸料金改正、肉用牛審査標準、産肉性評価基準などについて説明、報告し、次いで各県の情勢報告、その他当面の諸問題について活発に討議を行ない初日を終了した。

第二日目は会場を阿仁町畜産公社に移し、実牛六頭を中心に審査研究会を開催した。まず秋田県支部の小林中央審査委員から優良牛の生産方式について説明があり、審査標準に基づく採点の研究、さらに栄養状態と過肥の問題、資質の見方など重点的に審査研究が実施された。なお来年度の開催地については本部事務局と関係県で話し合うことになり、時期については事務局に一任することに決定した。

○ 理事会開催

昭和五十三年十月三十日午後三時より熊本市千葉城町熊本厚生年金会館において理事会を開催。会長後任人事を主目的とする臨時総会提案事項について審議された。

○ 臨時総会開催

後任会長に堀力氏を選任

昭和五十三年十月三十一日午前十時より熊本厚生年金会館において臨時総会を開催した。今回の臨時総会は昨年七月逝去された岡本前会長の後任人事（補欠選任）を目的として開催したもので、北海道、秋田、群馬、長崎、福岡、大分、熊本各県から多数の正会員（総代）が出席、来賓として農林水産省畜産局の中西家畜生産課長らの臨席があった。

会議はまず犬童常務理事を議長に選び、経過報告につづいて、前日開催の理事会の議決に基づく提案事項として、後任会長候補に元農林省家畜生産課長の堀力氏を推せん、満場一致で承認され、本会創立以来四代目の会長が誕生した。（堀力氏は学識経験者として会長理事に選任された。）

（堀力氏の略歴）

大正十三年山口県生まれ、宮崎農林専門学校、京都大学

農学部畜産学科卒、昭和二十六年農林省入省、畜産局自給飼料課長補佐、九州農政局構造改善部長、畜産局家畜生産課長を経て昭和五十年退官。

農林省在職中、オーストラリア、シドニー大学に留学、(肉用牛専攻)、昭和三十九年から四十二年まで熊本県畜産課長。

現在、日本軽種馬登録協会専務理事、家畜改良事業団理事、畜産技術連盟理事。

○ 西日本ブロック研究会

本年度の西日本ブロック研究会は熊本県支部の当番により十二月二十二、二十三日の両日阿蘇畜産農業協同組合において開催した。研究会には農林水産省、長崎県、熊本県の関係者が参集し、本部から堀会長らが出席した。

研究会第一日目は室内協議会を開催、東日本ブロック研究会と同様に本部からの事務報告と各県の情勢報告があり来年度の開催地を長崎県対馬支部に決定し、その他当面する諸問題や、登録審査における栄養度の取扱いなどについて活発な討議を行なった。

第二日目は河津中央審査委員の進行による実牛研究会に移り、登録規程改正に基づく特級登録の選抜方法など審査眼の統一を中心に熱心な実地研究が行なわれた。

○ 登録規程改正を農林水産大臣に申請

昭和五十四年四月一日より実施予定の登録規程改正について、本会ではこのほど農林水産大臣にその改正の申請を行なった。

○ 褐毛去勢肉牛審査標準および産肉性評価基準施行

本誌第四〇号をもって検討をお願いし、またその後のブロック研究会等においても検討を重ねてきました褐毛去勢肉牛審査標準および褐毛和種産肉性評価基準については、昭和五十四年一月一日よりこれを施行することになったので、以下全文を掲載し公表します。

褐毛去勢肉牛審査標準

大きさとも齢の目標

月 齢	生後二、三ヵ月
体 重	七〇〇 kg
体 高	一三四 cm
胸 囲	一二五 cm
肥育度指数	五二二

後軀	中軀	前頭および 頸部	資質	状態	均称	体積	区分
幅は広く、十字部は平らで、尾は長く、尾枕のないもの、腿は形よく、ゆたかな肉付きを示し、下腿部までよく充実しているもの。	胸は広く深く、肋はよく開張し、肉付きにむらがないもの。腹は下腰(けん)部までよく充実しているもの。背腰は平らで広く、適度に長く肉付きがよく、後軀への移行がなだらかなもの。	頭は軽く、頸は厚みがあつて長くないもの。き甲は厚く付着よく、肩後、ひじ後ともよく充実し、前胸は広く充実しているもの。	被毛は細く柔らかく、皮膚は薄めで弾力に富み、骨は太くなく角と蹄の質がよいもの。	肉付きはゆたかで充実し、脂肪の付着はなめらかでよくしまり、厚さ適度で、過肥でないもの。とくに肋、背腰および後軀の肉付きが十分なもの。	のつりあいがいよいもの	月齢相応の体重があり、体高はあまり高くなく、体軀の幅、深みは十分で、適度の伸びがあり、体上線と体下線がほぼ平行し、各部のつりあいがいよいもの	摘要
14	16	5	15	30	20	配点	

褐毛和種産肉性評価基準

- 褐毛和種去勢肉牛の産肉性は、この基準により評価する。
- 一、評価は、生体及び枝肉で行ない、その評価割合は四対六とする。
 - 二、生体は、別に定める去勢肉牛審査標準に基づく生体外貌と、一日当たり増体量(生後通算)で評価し、枝肉は枝肉歩留と枝肉格付等級で評価する。
 - 三、各項目ごとの評価区分は次表のとおりとする。

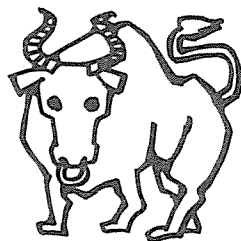
得点	生体 (40)		枝肉 (60)	
	※ 生体外貌 (20)	1日当たり増体量 (20)	枝肉歩留 (10)	※※ 枝肉等級 (50)
100				特選
95	A+ (87.5点以上)	1.00 kg 以上	68%以上	極上
90	A (85.0 ~ 87.4)	0.95 ~ 0.99	66.0 ~ 67.9	上+
85	B+ (82.5 ~ 84.9)	0.90 ~ 0.94	64.0 ~ 65.9	上
80	B (80.0 ~ 82.4)	0.85 ~ 0.89	62.0 ~ 63.9	中+
75	C+ (77.5 ~ 79.9)	0.80 ~ 0.84	60.0 ~ 61.9	中
70	C (77.5点未満)	0.75 ~ 0.79	60.0 %未満	並+
65		0.75 kg 未満		並

(注)

※※ 生体外貌の()内数字は去勢肉牛審査標準による得点。
 ※※ 枝肉等級は日本食肉格付協会の牛枝肉取引規格に準ずる。

(高等登録・雄牛)

高等登録 番号	名 号	得 点	血 統		所 有 者
			父	母	
高 53	第二重川	85.7	重 川 (1級191)	たまはる (高 526)	熊本県 阿蘇郡一の宮町 阿蘇畜協
高 54	弦 重	85.3	重 川 (1級191)	そ え い (高 346)	〃 下益城郡中央町 下益城畜協
高 55	蘇 竜	84.6	蘇 月 (高 35)	は つ み (1級14 073)	〃 球磨郡上村 球磨種雄牛管理所
高 56	蘇 殖	86.3	蘇 月 (高 35)	ふ ゆ る (1級2,387)	〃 〃
高 57	福 竜	83.8	竜 栄 (高 20)	ふ じ な み (高 229)	〃 熊本県有
高 58	光 武	86.4	光 優 (高 22)	ま る と し (高 227)	〃 〃
高 59	重 光	84.2	重 宝 (高 40)	つ き み や (高 748)	〃 菊池市深川 御山 弘



(高等登録・雌牛)

高等登録 番 号	名 号	得 点	血 統		所 有 者
			父	母	
高 742	はるさかえ	82.9	竜 明 (高 39)	さ か え (1級11.041)	熊本県 阿蘇郡一の宮町 栗明良一
高 743	は な	80.5	栄 光 (1級 116)	ふ く は な (2級熊14.418)	〃 〃 〃
高 744	は な	80.2	竜 栄 (高 20)	う め (本2.134)	〃 阿蘇町 古賀 義盛
高 745	第一 ちよはる	81.0	重 玉 (高 11)	ちよはる (1級12.446)	〃 〃 園田 義元
高 746	は る み	80.9	第五雄 栄 (本 689)	としやま (予熊22.696)	〃 〃 川口 勉
高 747	ふくえい	81.9	重 川 (1級 191)	さ か え (2級熊8.249)	〃 〃 中川 順雄
高 748	つきみや	82.9	蘇 栄 (1級 111)	みやのり (1級1.577)	〃 〃 大木今朝光
高 749	は な	81.5	重 宮 (1級 78)	きくえい (本5.007)	〃 波野村 高日 国人
高 750	第一さかえ	80.5	重 玉 (高 11)	ふじさかえ (1級14.232)	〃 産山村 井 一義
高 751	第一 まるはな	80.0	重 玉 (高 11)	まるはな (予熊49.353)	大分県 竹田市菅生 堀 一義
高 752	は じ め	81.7	菊 玉 (高 23)	も み じ (1級9.640)	熊本県 上益城郡矢部町 村上 勇
高 753	第二きく	81.0	蘇 南 (1級 68)	きくずき (1級5.232)	〃 菊池郡 大津町 村山 勉
高 754	はつひで	82.8	浜 丸 (本1.041)	はつみどり (2級熊10.463)	〃 〃 菊陽町 上野 正雄
高 755	も み じ	80.6	蘇 久 (本 676)	さくら (予熊36.982)	〃 大津町 西村 勝
高 756	し げ こ	82.4	重 高 (1級238)	しげなり (2級熊19.655)	〃 〃 岡田チズ子
高 757	え い こ	80.0	蘇 栄 (1級111)	そ え い (高 346)	〃 〃 古庄 明
高 758	あきばれ	81.5	草 桜 (本1.005)	第三はる (1級3.132)	〃 菊池市 鍋倉 有働 敏徳
高 759	いちふく	85.0	蘇 栄 (1級111)	すみれ (本5.118)	〃 山鹿市 上吉田 吉里 正士
高 760	は な え	80.6	草 桜 (本1.005)	ふくえ (本4.188)	〃 鹿本郡 菊鹿町 村上 二雄
高 761	はまあさ	83.1	楠 風 (1級108)	は ま み (本4.170)	〃 阿蘇郡 白水村 梅田 浅年
高 762	う め	80.0	第二竜 明 (高 49)	は な み (本6.888)	〃 〃 蘇陽町 興相清太郎
高 763	としまる	82.1	福 花 (高 31)	み な み (1級12.331)	〃 〃 白水村 梅田 孝滋
高 764	しらふじ	80.6	第二蘇 明 (1級244)	しげたか (本4.182)	〃 〃 伊藤 信保
高 765	み ず ほ	80.8	重 河 (本 999)	第一よしふじ (本5.767)	〃 〃 長陽村 村上 末広
高 766	なみしげ	83.0	福 陽 (本 791)	なみしげ (本7.618)	〃 〃 白水村 後藤 俊助

高等登録 番号	名 号	得 点	血 統		所 有 者
			父	母	
高 792	かずひめ	80.4	笹 春 (本 611)	みつひめ (本5.576)	秋田県 北秋田郡鷹巣町 佐藤 健一
高 793	わかぐさ	80.5	草 桜 (本1.005)	ちぐさ (1級34.409)	〃 大館市 松峯 畠山 富雄
高 794	ふくはる	81.0	錦 (本 920)	ふくやま (1級900)	〃 北秋田郡鷹巣町 米沢 善藏
高 795	ふじまる	83.0	福 岩 (1級130)	まるかめ (高 226)	〃 〃 藤島 茂男
高 796	まつこ	82.5	第三泉 (本1.056)	みどり (1級4.697)	〃 〃 畠山 精一
高 797	第三さかえ	81.8	浜 藤 (本 978)	はつふじ (子能38.844)	熊本県 阿蘇郡 阿蘇町 中川 力
高 798	ひかり	81.1	重 玉 (高 11)	ひぼり (本1.631)	〃 〃 岩本今朝熊
高 799	きく	80.0	栄 光 (1級116)	やつなみ (本2.488)	〃 〃 野上 郁夫
高 800	かすみ	83.4	重 玉 (高 11)	わかば (1級1.771)	〃 〃 湯浅 則行
高 801	えいふく	82.5	第三栄 (高 37)	こうえい (2級能14.301)	〃 〃 辻 勝茂
高 802	第二はる	80.7	重 川 (1級191)	はる (1級6.944)	〃 彦山村 小野 豊
高 803	まるみ	80.3	重 宮 (1級 78)	いつ子 (本4.574)	〃 阿蘇町 春山 勝美
高 804	ひめゆり	81.5	蘇 中 (高 10)	はまはな (1級5.065)	〃 〃 奈須 照春
高 805	みのる	85.2	蘇 明 (高 30)	みどり (1級7.166)	〃 〃 黒木 明時
高 806	たけ	82.0	竜 明 (高 39)	まつ (本8.173)	〃 一の宮町 小代久米喜
高 807	きく	80.9	菊 一 (高 42)	第三あつこ (1級10.958)	〃 彦山村 井 孝士
高 808	やまなみ	81.1	湖 城 (1級 56)	もりやま (1級6.817)	〃 阿蘇町 江藤 武光
高 809	第三もりさわ	82.8	蘇 中 (高 10)	第二もりさわ (本8.174)	〃 〃 森野ふくえ
高 810	ふじはな	87.1	重 玉 (高 11)	ふじたか (子能49.393)	〃 一の宮町 山部 三六
高 811	たまみつ	82.0	重 玉 (高 11)	はなみつ (本2.352)	〃 阿蘇町 井 健幾
高 812	みちはま	81.6	福 陽 (本 791)	みち (子能39.772)	〃 〃 森 一臣
高 813	みつえ	82.1	菊 玉 (高 23)	さかえ (高 380)	〃 上益城郡矢部町 上田 常雄
高 814	よつぎ	81.2	菊 玉 (高 23)	さくら (2級能10.869)	〃 〃 坂本 安喜
高 815	あきみ	82.0	重 吉 (高 25)	ますみ (2級能16.658)	〃 〃 田中 益之
高 816	ふじまる	82.8	菊 玉 (高 23)	さかえ (高 314)	〃 砥用町 谷田 曆雄

高等登録 番号	名 号	得 点	血 統		所 有 者
			父	母	
高 817	はるさかえ	82.9	松 久 (本1.026)	さ か え (本3.196)	熊本県 下益城郡中央町 山田 信夫
高 818	な つ	83.0	蘇 丸 (本1.000)	あ さ ひ (2級能11.692)	〃 〃 小川町 藤坂 光秋
高 819	み つ	80.6	第三竜月 (1級304)	り ゆ え い (2級能7.589)	〃 球磨郡 免田町 丸山 郁男
高 820	ふくひめ	81.1	浜 福 (1級140)	た つ み (高 268)	〃 〃 多良木町 恒松竜之助
高 821	ふ く	80.8	宮 勇 (本1.047)	ひ ろ み (本2.392)	〃 〃 赤池 二郎
高 822	た つ	83.0	竜 浦 (高 19)	は つ め (2級能15.049)	〃 人吉市木地屋町 小倉 市雄
高 823	た け	81.2	竜 浦 (高 19)	は る く さ (2級能8.651)	〃 球磨郡多良木町 淵田 良一
高 824	や よ い	80.3	草 桜 (本1.005)	た か ら (高 443)	〃 熊本市水前寺町 東 茂勝
高 825	はつひめ	81.6	浜 光 (1級175)	ふ み (2級能14.922)	〃 球磨郡 錦町 水本 末男
高 826	う め こ	80.6	松 浜 (本 893)	ゆ づ る (予能32.679)	〃 〃 上村 祝 十郎
高 827	き く	80.4	草 桜 (本1.005)	か ん ぎ く (高 635)	〃 〃 山江村 深川 政人
高 828	てるもみじ	84.9	松 浜 (本 893)	ふくみどり (1級9.454)	〃 〃 多良木町 矢立 正盛
高 829	ゆ り	80.6	蘇 月 (高 35)	は つ め (高 190)	〃 〃 猪原 正利
高 830	ふ じ	81.7	浜 福 (1級140)	さ よ (1級2.107)	〃 〃 山江村 田口 清隆
高 831	ふくさかえ	80.2	光 力 (高 27)	ふくはな (1級5.531)	〃 〃 多良木町 蔵座 庄蔵
高 832	と ち こ	81.4	幸 龍 (1級 31)	ひ ろ こ (1級4.089)	〃 〃 相良村 棚瀬 政治
高 833	な る み	80.5	浜 栄 (本 895)	た か ら (2級能901)	〃 〃 水上村 椎葉 末男
高 834	ふ じ	83.2	重 旗 (1級209)	は な ふ じ (1級3.895)	〃 鹿本郡 菊鹿町 坂本 一誠
高 835	ひろし	82.6	国 盛 (高 33)	き く (1級18.951)	〃 〃 有働 憲次
高 836	た ま る	81.6	蘇 丸 (本1,000)	しげみつ (1級 168)	〃 菊池郡 大津町 古庄 久
高 837	はるゆき	80.1	広 幸 (1級 21)	は る み (1級1.754)	〃 下益城郡砥用町 井上 勉
高 838	とみさかえ	81.0	草 富 (高 14)	さ か え (予能46.299)	〃 〃 宮崎 利秋
高 839	ひさみつ	81.4	久 旗 (高 29)	みつまる (本6.002)	〃 〃 津川 正義
高 840	み つ る	80.8	勇 生 (1級280)	さ つ き (1級13.648)	〃 〃 倉岡 幸二
高 841	ま さ み	81.9	久 旗 (高 29)	ひ で こ (予能39.501)	〃 〃 小川町 浜田 武雄

高等登録番号	名 号	得 点	血 統		所 有 者
			父	母	
高 842	しげうめ	83.3	重 宝 (高 40)	しらうめ (高 400)	熊本県 阿蘇郡 阿蘇町 河崎 充
高 843	しげひめ	83.6	重 川 (1級191)	けさひめ (1級10,214)	〃 〃 坂田 正士
高 844	きじま	81.8	第十光浦 (高 8)	第一はなさかえ (予熊49,312)	〃 〃 下城 政士
高 845	なみえい	82.2	蘇 栄 (1級122)	やまなみ (高 343)	〃 〃 田中 幸雄
高 846	はまさと	80.6	浜 藤 (本 978)	さ と (本8,161)	〃 〃 江入 孝達
高 847	第六はつひ	81.0	福 陽 (本 791)	は つ ひ (本4,151)	〃 〃 島野 洋資
高 848	ゆ り	82.5	重 玉 (高 11)	たまひかり (本8,801)	〃 一の宮町 室 静夫
高 849	うめはな	84.1	中 堀 (高 38)	いけさかえ (高 321)	〃 波野村 高日 清光
高 850	第三ほまれ	81.1	重 川 (1級 191)	第二ほまれ (高 524)	〃 〃 赤尾 三治
高 851	つぎひめ	80.4	重 玉 (高 11)	第二ほまれ (予大340)	大分県 竹田市 宮砥 岩田ツギヨ
高 852	ふじひめ	80.0	重 玉 (高 11)	はつひめ (高 133)	〃 直入郡 荻町 小出 霞
高 853	はやもと	80.6	二 福 (本1,050)	たかふく (本3,951)	熊本県 菊池市 長六 宮本 忠嗣
高 854	そ え い	80.4	蘇 久 (本 676)	や え い (予熊41,067)	〃 中西寺 栢川 幸人
高 855	第二ひめ	80.5	秋 山 (本 959)	ふ く (2級熊3,896)	〃 菊池郡 七城町 渡辺 義弘
高 856	第十にしき	81.7	重 川 (1級191)	ほ ま れ (本3,655)	〃 菊池市 生味 木崎 久
高 857	たまはる	80.9	球 磨 (本 629)	は つ の (1級3,969)	宮城県 黒川郡 大郷町 佐藤 信雄
高 858	ふくとみ	80.0	重 旗 (1級 209)	しげまる (2級熊4,551)	熊本県 阿蘇郡 小国町 秋吉 泰宏
高 859	第六さかえ	81.0	蘇 南 (高 34)	第五さかえ (1級3,239)	〃 上益城郡矢部町 村上 匡憲
高 860	み など	82.7	重 吉 (高 25)	み ね (予熊42,779)	〃 〃 中村 光市
高 861	第三しらゆり	80.3	重 玉 (高 11)	としこ (高 219)	〃 菊池郡 大津町 今村 維詔
高 862	あきこ	83.2	国 盛 (高 33)	はつひさ (1級6,564)	〃 〃 東 今朝男
高 863	さつき	80.7	勝 天 (本 894)	かねひめ (予熊45,510)	〃 球磨郡 錦町 春口 三郎
高 864	てるひめ	83.0	永 丸 (1級 237)	ふ く え (1級14,115)	〃 多良木町 皆越 新作
高 865	第二ふくひめ	83.2	蘇 月 (高 35)	ふくひめ (1級11,151)	〃 〃 岩下 義信
高 866	ひ め	81.2	蘇 月 (高 35)	ふくえい (2級熊15,891)	〃 〃 岸川 新六

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高 892	みつふく	80.0	蘇 (1級 111) 栄	みつえい (1級10.591)	熊本県 阿蘇郡 蘇陽町 三重野 実
高 893	第二さかえ	81.3	楠 (1級 108) 風	さかえ (本7.588)	〃 〃 有働 久
高 894	たから	80.3	福 (本 791) 陽	たかみ (2級熊5.105)	〃 〃 有働 市己
高 895	みつ	82.0	球 (高 24) 栄	みつえ (2級熊2.750)	〃 〃 山辺 正一
高 896	はなみつ	81.7	楠 (1級 108) 風	まるみつ (1級14.768)	〃 白水村 河内 健雄
高 897	ゆきはる	83.1	蘇 (本1.000) 丸	ゆきなみ (本5.101)	〃 〃 小林 盛次
高 898	あきやま	81.4	蘇 (本1.000) 丸	さかえ (1級181)	〃 〃 桐原 誠
高 899	第二いみる	81.9	福 (高 31) 花	いみる (1級10.538)	〃 〃 田尻 広武
高 900	第一ほまれ	84.5	第二竜 (高 49) 明	第二ほまれ (高 769)	〃 〃 山室 健蔵
高 901	くさふく	82.0	草 (本1.005) 桜	みふく (1級3.091)	〃 久木野村 後藤 強
高 902	まるみ	80.1	第三 (高 37) 栄	ふるとみ (2級熊22.624)	〃 〃 長陽村 塚元 秀典
高 903	きくまる	81.9	重 (1級299) 月	はなくさ (1級10.626)	〃 菊池郡 大津町 国武 恵
高 904	しげさかえ	82.3	竜 (高 39) 明	むつきかえ (本8.167)	〃 阿蘇郡 阿蘇町 田中 登
高 905	ひさし	81.0	重 (高 48) 波	えいこ (1級10.237)	〃 〃 村岡 巖
高 906	ふくえい	82.1	蘇 (1級122) 栄	そうせい (高 58)	〃 〃 今村 助
高 907	たから	83.0	重 (高 40) 宝	あさひ (2級熊16.259)	〃 〃 岡田 政範
高 908	なみはる	82.0	重 (高 11) 玉	はるなみ (2級熊18.236)	〃 〃 森田仁八郎
高 909	しげふく	82.3	重 (高 11) 玉	ふくみつ (1級12.508)	〃 〃 佐藤 伸士
高 910	第七こうふく	82.3	菊 (1級245) 雄	第六こうふく (1級18.279)	〃 〃 奈須 保親
高 911	ふくはな	80.8	光 (1級 25) 龍	ふくみつ (2級熊7.104)	〃 〃 岩本今朝熊
高 912	きぬひめ	81.2	重 (高 11) 玉	みのぶ (予熊44.313)	大分県 竹田市 菅生 佐藤 利明
高 913	ちどり	80.0	秋 (本 959) 山	ふくえい (高 65)	熊本県 菊池市 出田 山下はる子
高 914	なみこ	81.9	金 (高 16) 波	きくつぎ (2級熊2.113)	〃 菊池郡 大津町 上田 誠
高 915	はつよ	83.1	金 (高 32) 時	はつなみ (1級16.973)	〃 〃 西村 辰幸
高 916	さつき	81.6	美 (本 962) 波	はじめ (予熊29.930)	〃 菊陽町 河北 義則

高等登録 番 号	名 号	得 点	血 統		所 有 者
			父	母	
高 917	た ま み	83.5	重 川 (1級191)	たまさかえ (1級1.130)	熊本県 菊池郡 菊陽町 田口 謙一
高 918	さ か え	81.6	菊 玉 (高 23)	ま つ み (本8.477)	〃 上益城郡矢部町 菅 今朝男
高 919	は な	80.1	桜 (1級174)	さ だ こ (1級8.006)	〃 〃 水田 久
高 920	ま ち こ	80.8	蘇 明 (高 30)	ち よ こ (1級9.593)	〃 〃 井上今朝男
高 921	よ し こ	80.8	菊 栄 (高 41)	ふくまる (本4.868)	〃 鹿本郡 植木町 三島 敏之
高 922	ゆ り め	82.7	球 光 (高 26)	さ か え (1級4.865)	〃 下益城郡中央町 松本 茂利
高 923	ま り こ	82.3	久 月 (1級298)	ふ く こ (1級16.858)	〃 阿蘇郡 高森町 三森 栄子
高 924	第二さかえ	81.2	蘇 丸 (本1.000)	さ か え (本6.901)	〃 〃 田上 幸人
高 925	ま つ は な	81.0	草 桜 (本1.005)	よしまつ (1級1.648)	〃 〃 岩下 克己
高 926	こざくら	80.6	福 花 (高 31)	しらゆり (本4.702)	〃 〃 後藤 文教
高 927	すずらん	84.6	福 花 (高 31)	りんどう (1級1.576)	〃 〃 児玉 守
高 928	あ さ ひ	80.7	草 桜 (本1.005)	に し き (本4.205)	〃 〃 蘇陽町 山辺 狩又
高 929	みねかず	80.8	蘇 栄 (1級111)	さ か え (予能26.712)	〃 〃 白水村 古沢 保雄
高 930	はまさかえ	80.4	春 光 (本 504)	は ま (本1.456)	〃 〃 梅田 修
高 931	ふくずみ	81.0	春 福 (1級110)	さ か え (本8.339)	〃 〃 梅田 孝滋
高 932	しげゆう	81.5	重 河 (本 999)	さんゆう (予能22.713)	〃 〃 久木野村 今村 保守
高 933	ふくまる	82.6	球 栄 (高 24)	みつふく (1級6.232)	〃 〃 長陽村 村上 定
高 934	たまちよ	80.1	球 栄 (高 24)	なみちよ (高 94)	〃 〃 長野角兵衛
高 935	と み え	82.5	蘇 栄 (1級111)	しげとみ (本2.673)	〃 〃 後藤 繁栄
高 936	としみつ	82.3	草 桜 (本1.005)	はつまる (1級4.186)	〃 〃 長野 国勝
高 937	さ か え	81.9	福 陽 (本 791)	はるふく (予能41.607)	〃 〃 高森町 宇藤 明
高 938	はつあき	80.8	重 旗 (1級209)	あきばれ (1級13.993)	〃 〃 菊池市 平良石 渡辺 一行
高 939	第二 とちひかり	81.9	福 美 (高 13)	とちひかり (1級6.994)	秋田県 山本郡 峰浜村 目沼金治郎
高 940	第16さつき	83.0	竜 明 (高 39)	第十一さつき (高 132)	熊本県 阿蘇郡 阿蘇町 横田今朝光
高 941	わかみどり	81.5	重 旗 (1級209)	み どり (本8.211)	〃 〃 宮本円太郎

高等登録番号	名号	得点	血統		所有者
			父	母	
高 942	第一さつき	81.1	重玉 (高 11)	はつきつき (1級10.170)	熊本県 阿蘇郡 阿蘇町 高宮ソボミ
高 943	さつき	80.5	重玉 (高 11)	はつきく (1級4.430)	〃 〃 下村 政喜
高 944	ふじたま	80.8	重川 (1級191)	第二ふじさかえ (1級10.989)	〃 〃 春山多喜雄
高 945	さかえふく	82.7	第三栄 (高 37)	ふくとみ (1級13.250)	〃 〃 今村 助
高 946	たまなみ	80.3	竜明 (高 39)	たまみ (高 197)	〃 〃 荒木 義美
高 947	第十二あやめ	80.4	浜藤 (本 978)	あやめ (高 45)	〃 〃 下村 重明
高 948	はまみつ	80.6	福花 (高 31)	はまさかえ (1級4.231)	〃 〃 北里 忠
高 949	ふくえい	85.1	重宝 (高 40)	はな (1級23.478)	〃 一の宮町 村上 久義
高 950	きく	85.8	光重 (1級 333)	第十きくなみ (1級13.235)	〃 阿蘇町 阿部 友幸
高 951	しげなみ	82.0	重高 (1級238)	なみこ (1級19.808)	〃 菊池郡 大津町 上村 剛
高 952	ふみ	81.0	重吉 (高 25)	はるみ (2級熊8.494)	〃 上益城郡矢部町 上田 一男
高 953	ゆり	84.6	蘇誠 (高 36)	あけこ (1級18.778)	〃 下益城郡砥用町 井上 明
高 954	第三わかみつ	80.4	草富 (高 14)	第二わかなみ (1級7.248)	〃 〃 田上 義人
高 955	はつひかり	80.1	初丸 (高 28)	ひかり (1級11.604)	〃 〃 米田 尚
高 956	さかえなみ	83.8	初丸 (高 28)	なみはな (1級844)	〃 松橋町 桑山不比男
高 957	しらゆき	83.7	菊玉 (高 23)	てるみつ (2級熊10.834)	〃 上益城郡甲佐町 里形幸次郎
高 958	みつひめ	83.7	草桜 (本1.005)	はるひめ (2級熊19.181)	〃 人吉市下原田町 向岩 二男
高 959	のぞみ	80.9	重春 (1級292)	はつほし (2級熊15.267)	〃 菊池郡 大津町 豊岡 申記
高 960	えいこう	80.1	蘇栄 (1級111)	さかえる (本3.799)	〃 〃 大塚 洋
高 961	はなこ	82.7	光優 (高 22)	やまぶき (1級10.307)	〃 山鹿市 南島 角田 済
高 962	まる	81.0	高丸 (1級242)	かつみ (1級8.453)	〃 鹿本郡 鹿本町 緒方 達二
高 963	ひかり	82.1	光優 (高 22)	ふぶき (高 98)	〃 山鹿市 平山 高木 行年
高 964	ふくよ	84.7	蘇明 (高 30)	さくら (1級15.586)	〃 下益城郡砥用町 船田喜三郎
高 965	第一さかえ	82.5	重玉 (高 11)	いみる (予熊35.986)	〃 阿蘇郡一の宮町 坂梨 増美
高 966	まるひめ	83.8	重玉 (高 11)	まるきく (高 184)	〃 阿蘇町 浅久野和徳

高等登録 番 号	名 号	得 点	血 統		所 有 者
			父	母	
高 967	と み	83.7	第 三 榮 (高 37)	ふ く よ (1級8,789)	熊本県 阿蘇郡 阿蘇町 黒木 明時
高 968	第三まる	81.1	蘇 榮 (1級122)	第二まる (本2,477)	〃 〃 浅久野広一
高 969	はなたま	80.4	浜 藤 (本 978)	さ か え (子能49,475)	〃 〃 吉岡 大竜
高 970	か ず こ	82.6	重 玉 (高 11)	さ つ 子 (高 89)	〃 〃 大和 康美
高 971	と み 二	85.0	重 波 (高 48)	と み 一 (1級10,234)	〃 〃 野上 誠也
高 972	てるいずみ	83.1	第 三 泉 (本1,056)	ふ く ひ め (本4,630)	秋田県 山本郡 峰浜村 伊勢 運吉
高 973	ま り	80.3	第 三 泉 (本1,056)	き よ ひ め (1級19,170)	〃 能代市 桧山 齊藤 正男
高 974	まるまき	80.9	重 玉 (高 11)	まる い ち (1級5,228)	熊本県 人吉市 南町 養田 信義
高 975	み ど り	81.8	蘇 月 (高 35)	あ さ ぎ り (1級18,739)	〃 〃 下原田町 荒毛 政信
高 976	ま り	80.6	竜 浦 (高 19)	さ ち (1級11,972)	〃 〃 下田代町 岩永 利之
高 977	ひ と り	84.4	蘇 月 (高 35)	ふ く こ (1級12,174)	〃 球磨郡 錦町 中村 春男
高 978	む つ め	80.3	球 光 (高 26)	ま る は ま (高 640)	〃 〃 小田 麻穂
高 979	ふくえい	80.1	榮 (1級 91)	こ う え い (1級9,272)	〃 〃 植木 涼
高 980	ふくえい	80.0	草 桜 (本1,005)	ふ く み (1級18,564)	〃 〃 田中八千代
高 981	くさひめ	80.5	草 桜 (本1,005)	さ き な み (2級熊18,014)	〃 〃 樽本 正行
高 982	は な	80.6	菊 雄 (1級 245)	た ま つ ば き (1級12,491)	〃 〃 深田村 高畠 忠一
高 983	み ひ め	80.0	草 桜 (本1,005)	は つ み (1級16,666)	〃 〃 椎葉 時男
高 984	は な	80.2	竜 浦 (高 19)	は つ ひ め (1級20,080)	〃 〃 恒松栄次郎
高 985	第二すすむ	83.1	竜 浦 (高 19)	す す む (1級4,932)	〃 〃 免田町 東 輝朝
高 986	第二ありあけ	80.0	浜 浦 (1級 20)	あ り あ け (1級1,056)	〃 〃 的射場葛志
高 987	さ つ き	83.0	蘇 月 (高 35)	ま つ さ か え (1級4,921)	〃 〃 上村 樫木 孝義
高 988	わかくさ	81.1	松 浜 (本 893)	し げ よ し (子長 575)	〃 〃 西峰 福松
高 989	さ か え	81.3	重 福 (高 47)	せ い こ う (高 42)	〃 〃 相良村 桑原 誠
高 990	は な	80.6	蘇 月 (高 35)	ふ く み (高 500)	〃 〃 米田 正男
高 991	ふ く	83.7	竜 浦 (高 19)	き く ひ め (1級15,199)	〃 〃 多良木町 飽田富士雄

高等登録 番号	名 号	得 点	血 統		所 有 者
			父	母	
高 767	は つ ひ	81.2	草 福 (本1.001)	は ま よ い (1級 314)	熊本県 阿蘇郡 高森町 村上 照明
高 768	と み は る	80.1	春 光 (本 504)	と み (本3.786)	〃 〃 本田 道明
高 769	第二ほまれ	84.3	福 花 (高 31)	第一ほまれ (高 371)	〃 〃 白水村 山室 健蔵
高 770	こうえい	82.5	金 波 (高 16)	は な ま る (高 7)	〃 〃 蘇陽町 有働 久
高 771	そ よ う	80.0	楠 風 (1級108)	ふ く え い (1級6.121)	〃 〃 甲斐 文夫
高 772	くすざくら	82.1	楠 風 (1級108)	第一たまる (本3.801)	〃 〃 久木野村今村 則夫
高 773	まつえい	80.3	草 桜 (本1.005)	え い ふ く (予熊26.636)	〃 〃 白水村 長崎 実
高 774	ふくまる	80.0	福 花 (高 31)	みつはる (1級10.712)	〃 〃 久木野村藤崎 急
高 775	よしくさ	80.2	草 丸 (本1.004)	か ず は な (予熊8.843)	〃 〃 高森町 白石 吉男
高 776	としかわ	80.8	蘇 河 (1級 112)	ゆ う と し (予熊19.878)	〃 〃 野尻 俊幸
高 777	たまもり	82.1	蘇 丸 (本 1,000)	た ま こ (本4.706)	〃 〃 児玉 守
高 778	みずくさ	80.3	草 桜 (本1.005)	い み る (本5.788)	〃 菊池郡大津町 緒方 秀男
高 779	そ い ち	82.4	蘇 丸 (本 1,000)	いちまる (高 264)	〃 阿蘇郡久木野村 今村 一男
高 780	つぐみつ	83.1	蘇 丸 (本1.000)	な み は ま (1級253)	〃 〃 浅尾はつ子
高 781	は つ み	83.7	昭 浜 (1級 14)	は つ ひ め (1級11.277)	〃 球磨郡多良木町 東 茂勝
高 782	ひ ろ え	83.4	広 野 (本 952)	い つ な み (本4.068)	〃 〃 上 村 平川 忠
高 783	め ぐ み	82.1	松 浜 (本 893)	は る ひ め (1級2.055)	〃 〃 山江村 宮田 勝男
高 784	しらぎく	80.3	竜 浦 (高 19)	は ま ぎ く 2級熊4.311)	〃 〃 深田村 清田 繁友
高 785	ふくひめ	81.7	草 桜 (本1.005)	ひ め (高 409)	〃 熊本市水前寺町 塚元 勇
高 786	て る	81.2	浜 藤 (高 17)	め ぐ み (1級6.363)	〃 球磨郡 免田町 上田 敦
高 787	さ つ き	81.3	浜 栄 (本 895)	み ね ま る (高 138)	〃 〃 須恵村 万江 慧
高 788	は つ ひ め	80.1	松 浜 (本 893)	さ か え (2級熊21.350)	〃 〃 浜田 武保
高 789	や ひ め	80.4	藤 波 (高 21)	第五ひばり (1級5.032)	〃 菊池市 伊 野 赤星 惟信
高 790	た ま み	82.0	重 玉 (高 11)	も み じ (本6.908)	〃 玉名市南坂門口 高田 義明
高 791	まつひめ	81.7	霧 藤 (本1.045)	ふ じ ま る (2級秋102)	秋田県 大館市 商人留 田中キクノ

高等登録 番号	名 号	得 点	血 統		所 有 者
			父	母	
高 992	はるすえ	80.0	光力 (高 27)	さかえ (1級3.712)	熊本県 球磨郡多良木町 尾方球磨男
高 993	きくひめ	83.6	草桜 (本1.005)	きく (1級1.979)	〃 〃 尾方 年次
高 994	さつき	82.3	第三竜月 (1級304)	はつみ (1級11.960)	〃 〃 愛甲 倉美
高 995	はな	80.4	浜藤 (高 17)	ふくはな (1級11.188)	〃 〃 東 朝生
高 996	第八ひかり	83.8	重吉 (高 25)	えいふく (高 139)	〃 〃 尾方 一夫
高 997	さんえい	82.7	蘇月 (高 35)	くるみ (1級1.993)	〃 〃 野田 久幸
高 998	きくひめ	81.0	松浜 (本 893)	きく (本5.895)	〃 岡原村 山下亀勇太
高 999	たえ	80.9	第二竜月 (1級302)	たつこ (1級15.837)	〃 湯前町 平木 幹夫
高 1000	さくら	80.1	永丸 (1級237)	はるくさ (2級熊8.651)	〃 〃 深水 政人
高 1001	たまひめ	82.5	蘇月 (高 35)	さちひめ (1級16.559)	〃 〃 椎葉 時吉
高 1002	ふくひめ	81.1	永丸 (1級237)	みつこ (1級20.248)	〃 〃 金子 嘉輝
高 1003	ふため	81.3	光力 (高 27)	きくさかえ (1級3.717)	〃 〃 日岡憲一郎

○ あか牛子牛市況

(53年7月~12月)

県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高	最低	平均価格
秋 田 県	8. 21	二ツ井	めす	38	360.000	191.000	276.710
			おす	—	—	—	—
			去勢	55	352.000	217.000	288.709
	8. 22	北秋田	めす	50	422.000	178.000	264.800
			おす	2	266.000	50.000	158.000
			去勢	50	342.000	198.000	283.880
	10. 21	阿仁合	めす	27	341.000	154.000	232.852
			おす	20	251.000	121.000	195.850
			去勢	21	402.000	203.000	287.143
	10. 22	阿仁合	めす	45	336.000	100.000	214.067
			おす	34	296.000	93.000	185.853
			去勢	21	401.000	181.000	268.857
	10. 23	前田	めす	54	383.000	74.000	185.333
			おす	28	200.000	103.000	165.857
			去勢	31	342.000	192.000	271.516
	10. 25 26	北秋田	めす	94	564.000	141.000	265.649
			おす	9	266.000	142.000	197.111
			去勢	89	376.000	126.000	288.854
	12. 12	北秋田	めす	49	402.000	171.000	278.426
			おす	1	265.000	265.000	265.000
			去勢	49	404.000	253.000	308.898
12. 13	能代	めす	41	471.000	172.000	274.977	
		おす	—	—	—	—	
		去勢	67	344.000	236.000	294.979	
長 崎 県	11. 7	対馬	めす	79	322.000	123.000	222.519
			おす	29	303.000	126.000	213.724
			去勢	70	333.000	166.000	236.357

県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高	最低	平均価格
熊本県	7. 17 19	阿蘇	めす	657	630.000	154.000	245.737
			おす	198	450.000	130.000	244.167
			去勢	482	350.000	116.000	261.546
	7. 25	南関	めす	17	250.000	170.000	216.466
			おす	15	280.000	170.000	224.200
			去勢	—	—	—	—
	7. 26	江田	めす	21	284.000	190.000	226.000
			おす	8	270.000	171.000	214.375
			去勢	29	292.000	171.000	241.250
	8. 9	小国	めす	96	442.000	143.000	217.896
			おす	22	280.000	162.000	204.364
			去勢	90	332.000	133.000	237.789
	8. 18 19	鹿本	めす	156	421.000	150.000	249.971
			おす	18	481.000	155.000	242.833
			去勢	144	341.000	170.000	266.675
	8. 21 22	菊池	めす	200	550.000	160.000	255.105
			おす	40	450.000	195.000	251.500
			去勢	195	340.000	171.000	271.374
	8. 23	大津	めす	125	500.000	139.000	257.096
			おす	20	450.000	133.000	261.000
			去勢	110	368.000	251.000	284.727
8. 25 27	球磨	めす	517	1,000.000	137.000	271.004	
		おす	44	500.000	160.000	254.182	
		去勢	451	346.000	84.000	269.492	
9. 3	下益城	めす	93	780.000	174.000	261.674	
		おす	28	340.000	181.000	242.714	
		去勢	67	328.000	151.000	268.060	
9. 4	山西	めす	64	402.000	159.000	247.097	
		おす	33	400.000	186.000	247.655	
		去勢	27	371.000	210.000	258.385	

県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高	最低	平均価格
熊 本 県	5 9. \ 7	高森	めす	469	1,500,000	160,000	262,055
			おす	143	455,000	141,000	235,124
			去勢	338	341,000	136,000	259,849
	8 9. \ 9	矢部	めす	279	680,000	136,000	252,470
			おす	147	500,000	175,000	252,306
			去勢	162	312,000	199,000	258,277
	9. 10	上益城	めす	73	490,000	197,000	248,704
			おす	48	300,000	202,000	248,313
			去勢	21	280,000	212,000	248,143
	17 9. \ 19	阿蘇	めす	494	1,700,000	186,000	291,444
			おす	174	480,000	122,000	287,312
			去勢	360	395,000	196,000	305,393
	10. 9	小国	めす	103	410,000	151,000	242,208
			おす	15	257,000	178,000	222,833
			去勢	89	408,000	151,000	273,487
	10. 12	玉名	めす	35	295,000	213,000	260,121
			おす	10	341,000	208,000	258,700
			去勢	26	331,000	245,000	285,080
	10. 13	南関	めす	14	305,000	230,000	280,076
			おす	13	280,000	180,000	253,923
			去勢	—	—	—	—
25 10. \ 27	球磨	めす	547	1,900,000	185,000	318,876	
		おす	35	500,000	206,000	300,914	
		去勢	531	401,000	186,000	288,002	
15 11. \ 16	鹿本	めす	165	570,000	218,000	307,385	
		おす	9	282,000	230,000	271,250	
		去勢	154	401,000	170,000	300,135	
17 11. \ 18	菊池	めす	248	531,000	185,000	290,191	
		おす	33	355,000	185,000	280,727	
		去勢	218	421,000	202,000	312,479	

県別	開催年月日	市場名	性別	頭数	最高	最低	平均価格
熊 本 県	11. 19	大 津	めす	137	570.000	181.000	285.372
			おす	12	470.000	213.000	299.500
			去勢	132	425.000	190.000	311.977
	11. 24	上益城	めす	60	510.000	209.000	272.750
			おす	32	331.000	224.000	282.125
			去勢	24	340.000	247.000	300.125
	11. 25 26	矢 部	めす	273	800.000	187.000	278.255
			おす	115	400.000	173.000	260.547
			去勢	231	355.000	201.000	274.974
	11. 27	下益城	めす	126	1,370.000	135.000	288.186
			おす	27	480.000	205.000	273.333
			去勢	95	389.000	217.000	287.234
	11. 28 30	阿 蘇	めす	559	1,005.000	120.000	295.974
			おす	197	584.000	200.000	298.076
			去勢	408	462.000	190.000	326.162
	12. 4	山 西	めす	76	375.000	201.000	257.159
			おす	51	337.000	194.000	263.911
			去勢	31	314.000	223.000	285.417
	12. 5 7	高 森	めす	498	1,200.000	102.000	296.370
			おす	169	515.000	127.000	266.106
			去勢	431	378.000	179.000	287.898
12. 11	小 国	めす	101	450.000	70.000	239.500	
		おす	13	340.000	202.000	234.167	
		去勢	109	453.000	198.000	268.173	
12. 13 15	球 磨	めす	571	1,830.000	171.000	293.133	
		おす	33	341.000	205.000	272.818	
		去勢	500	386.000	177.000	293.663	



第 42 号

昭和 54 年 1 月 20 日印刷
昭和 54 年 1 月 30 日発行

編集責任者 松川 昭 義

印刷者 村 嶋 農志郎

発行所 日本あか牛登録協会
熊本市草葉町1番21号
振替 熊本1510
TEL (55) 4607 〒860

印刷所 印刷の村嶋企画
熊本市小山町432
TEL (80) 7095